

事業名	青少年教育推進事業費	財務コード (事業)	159701
-----	------------	---------------	--------

細事業名	青少年長期自然体験活動事業費
------	----------------

担当部課室	教育委員会	社会教育	課	青少年教育	担当(内線)	8364
-------	-------	------	---	-------	--------	------

事業の概要

実施期間	始期 S63 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(委託)		
事業の目的	誰(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	県内中学生	自主性や創造性が養われている	心豊かでたくましい青少年の育成、地域リーダーとしての資質向上
事業の内容 主に 24年度	八丈島において、日常生活とかけ離れた自然体験、洋上体験、交流体験、環境教育等を行う。 (キャンプ生活、サバイバル踏破、ピバーク、スノーケル、自主企画活動等) 委託先: フロンティア・アドベンチャーやまなし少年海洋道中実行委員会		
	実行委員会 3回 委員11名 事務局3名 指導者会議 5回 指導者12名 大学生リーダー5名 抽選会 県内3カ所 事務局2名、各教育事務所担当1名 現地調査 1回 事務局2名 (2泊3日) 事前研修 1回(1泊2日) 参加中学生50名、指導者12名、大学生リーダー5名 (県立愛宕山少年自然の家) 現地研修 8泊9日 参加中学生50名、指導者12名、大学生リーダー5名 (東京都八丈島八丈町垂戸キャンプ場) 事後研修 1回(日帰り) 参加中学生50名、指導者12名、大学生リーダー5名 (県立八ヶ岳少年自然の家) その他 八丈島小中学生との交流が現地2回、八ヶ岳(八丈島外体験学習来県)1回、計3回 自己負担金: 50,000円		
根拠法令等	フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」実施要綱		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 参加者数	49人	50人	50人	50人	50人	活動指標 目標設定の考え方 事業内容が充実し、中学生にとって魅力あるものにするによって、定員50名を確保できる。 データの出典等 参加中学生数
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		100.0 %			
成果指標 リーダーとしての自覚が高まった者の割合(参加者事後アンケートより)	100%	100%	100%	100%	100%	成果指標 目標設定の考え方 事後アンケートによって、参加者及び保護者から、充実した活動であったという回答が寄せられる事を目標とする。 データの出典等 事後アンケート調査
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		100.0 %			
決算額、予算額 (千円)	2,505	2,507		2,538	2,555	成果指標によらない成果 1200人を越えるこれまでの参加者の中には、本事業の大学生リーダー(指導者の一員)として力を発揮する者や、地域のジュニアリーダーとして活躍する者も多い。
うち一財額	43	2		2,538	2,555	
所要時間(直接分)	100 時間	100 時間		100 時間	100 時間	
所要時間(間接分)	775 時間	775 時間		775 時間	750 時間	
所要時間計	875 時間	875 時間		875 時間	850 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,050円×所要時間)	1,794	1,794		1,794	1,743	

これまでの事業の見直し・改善状況

平成10年度から、参加希望者が3倍を超えていたので、参加者を10名増やし60名とする。平成15年度からは、指導者数との関係で安全性の確保を優先するとともに、計画変更時の対応等を考慮し定員を50名に戻す。平成16年度で国の補助が打ち切られ、平成17年度以降県費のみの実施となるが、県内中学生(保護者)のニーズに応えるべく、プログラム等の改正をしてきた。

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H24年度活動指標達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記入すること
H24年度成果指標達成率			
b	b	参加者および保護者を対象とした事前・事後アンケート結果や事後の感想文などにより、満足感・達成感・成就感などから、精神的、身体的な成長がうかがえる。また、リーダー育成というねらいから、今後、学校や地域における活躍も期待できる。実際に、参加中学生が後に本事業の大学生リーダーとして携わるケースや地域のジュニアリーダーとして活躍するケースもある。以上により、意図した成果を上げている。	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	会議資料等の事前メール配付による会議時間・資料印刷時間の削減。 専門技術を持つ指導員の高齢化に伴い、事業の継続を考える上で新たな専門指導員の育成が急務である。	m

・「以外の判断項目」の欄
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	会議資料等の事前メール配付による会議時間・資料印刷時間の削減。 専門技術を持つ指導員の高齢化に伴う、事業の継続を考える上で新たな専門指導員の育成。 ボランティアリーダー研修を、これまでの責任者のみから、後継者を含めた参加とするなど、知識・技術等の伝達の機会を可能な限り設定しながら、新たな指導者の育成に努めていく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。